

中原佑介美術批評選集】運動プロジェクト

中原佑介を読む 美術批評の地平 Vol.2

中原佑介氏は、戦後美術批評の地平を開き、透徹した論理と平易な語り口をもって、戦後日本の現代美術批評を牽引してきました。1955年、「創造のための批評」での鮮烈なデビューから、日本初の本格的な国際展となった1970年の「人間と物質」展、科学技術と芸術の問題を論じた『大発明物語』(1975年)、現代美術や現代彫刻についての入門書、そして2000年代の「大地の芸術祭」をめぐる一連の批評まで、氏の仕事は、戦後美術のあらゆるテーマを包括していたと言えるでしょう。その膨大な仕事をまとめた『中原佑介美術批評選集』(全12巻うち1巻は英語版)の刊行が2011年8月よりスタート、2015年3月の完結を目指して出版が続いている。

「中原佑介を読む」第2弾は、選集で刊行されている巻に従って、そのテーマにふさわしい批評家、キュレーター、アーティスト等を招き、中原氏のテキストを自らの問題意識に照らしあわせながら読み込んでいきます。受講者は、同テキストを事前に読んでくることを前提として参加していただき、発表に対する質疑応答、議論を行いたいと思います。深い議論が展開されると思いますが、美術研究者だけでなく、様々なクリエーションの現場に関わる若い世代の参加を期待します。

会期 | 2013年5月～2014年3月 各月1回 ※8月を除く(全10回)

時間 | 19:30～21:30

定員 | 25名(応募多数の場合は選考あり)

参加費 | 全回通し 一般 20,000円 学生 10,000円、

会員・スクール生 18,000円

申込 | 応募用紙に、氏名、所属等の他、自己紹介(+参加動機=400字程度)を記入し、以下までメールないしファックスで提出してください。

問合せ | BankART スクール事務局

school@bankart1929.com

TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

会場 | BankART Studio NYK(6月、9月、11月、1月、3月)

〒231-0002横浜市中区海岸通3-9

横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口[赤レンガ倉庫口]徒歩5分

クラブヒルサイドサロン(5月、7月、10月、12月、2月)

〒150-0033東京都渋谷区猿楽町30-2

ヒルサイドテラス アネックスB棟2F

東急東横線「代官山駅」下車 徒歩3分

主催:BankART1929、クラブヒルサイド

『中原佑介美術批評選集』

第1巻「創造のための批評—戦後美術批評の地平」

第3巻「前衛のゆくえ—アンデパンダン展の時代とナンセンスの美学」

第4巻「見ることの神話」から—アイディアの自立と芸術の変容」

第5巻「人間と物質」展の射程—日本初の本格的な国際展」

第6巻「現代彫刻論—物質文明との対峙」

第7巻「大発明物語—芸術に対する科学的思考」

第8巻「現代彫刻論—物質文明との対峙」

第9巻「大発明物語—芸術と科学的思考」

発行:現代企画室+BankART出版



受講生の方は、BankART1929、スクール会場にて各巻を
本体価格より¥1,200割引でご購入頂けます

第1回 「第1巻 創造のための批評—戦後美術批評の地平」(1)

榎木野衣 | 5月14日[火] | クラブヒルサイドサロン

さわらぎのい | 美術評論家、多摩美術大学美術学部教授。1962年埼玉県生まれ。評論のほかに、新たな視点で話を呼んだ展覧会「日本ゼロ年」「アノーマリー」などを企画。主な著書に「日本・現代・美術」「戦争と万博」「反アート入門」など。近年は岡本太郎の再評価や戦争記録画の再考にも力を注ぐ。

第2回 「第1巻 創造のための批評—戦後美術批評の地平」(2)

岡崎乾二郎 | 6月15日[土] | BankART Studio NYK

おかげきんじろう | 造形作家、批評家。1955年東京生まれ。82年パリビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。2002年にはセゾン現代美術館にて個展。同年「ヴェネツィアビエンナーレ第8回建築展」(日本館ディレクター)、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開。近畿大学国際人文科学研究所教授、副所長。

第3回 「第4巻「見ることの神話」から—アイディアの自立と芸術の変容」

福住治夫 | 7月9日[火] | クラブヒルサイドサロン

ふくすみはるお | 1939年兵庫県生まれ。1967年より『美術手帖』誌(美術出版社)の編集にたずさわり、1971年から73年にかけて編集長をつとめる。その後、同社で書籍を編集。80年よりフリーの編集者/美術ジャーナリストとして活動。97年より美術誌月刊『あいだ』を主宰(同誌は2013年3月現在201号を数える)。トム・ウルフ「現代美術コントン」、アンディ・ウォーホル「バット・パケット」「ポップズム」、エイドリアン・フォーティ「欲望のオブジェ」など、高島平吉名での訳書も多いが、現在は前記『あいだ』の編集に専念。

第4回 「第3巻 前衛のゆくえ—アンデパンダン展の時代とナンセンスの美学」

林道郎 | 9月10日[火] | BankART Studio NYK

はやしみちお | 美術史、美術批評、上智大学国際教養学部教授1959年生まれ。主な著書に「絵画は二度死ぬ、あるいは死がない」「ゲルハルト・リヒター」(共著)、「シュルレアリズム美術を語るために」(共著)など。訳書にエミール・ディ・アントニオ+ミッチ・タックマン『現代美術は語る—ニューヨーク・1940～1970』(青土社)など。

第5回 「第5巻「人間と物質」展の射程—日本初の本格的な国際展」(1)

加治屋健司 | 10月8日[火] | クラブヒルサイドサロン

かじやけんじ | 1971年千葉県生まれ。広島市立大学芸術学部准教授。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ代表。『中原佑介美術批評選集』編集委員を務める。共編著に『広島アートプロジェクト2008』、『From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989』、共著に『マーク・ロスコ』など。共訳にボワクラウス『アンフォルム』。

第6回 「第5巻「人間と物質」展の射程—日本初の本格的な国際展」(2)

光田由里 | 11月12日[火] | BankART Studio NYK

みつだゆり | 美術評論家、兵庫県生まれ、京都大学文学部卒業。専門は近現代美術史および写真史。著書に『高松次郎 言葉とともに—日本の現代美術1961～72』『写真、芸術との界面に—写真史一九一〇年代一七〇年代』『『美術批評』誌とその時代』。共著に『大辻清司の写真—出会いとコラボレーション』『野島康三写真集』など。

第7回 「第6巻 現代彫刻論—物質文明との対峙」(1)

近藤幸夫 | 12月10日[火] | クラブヒルサイドサロン

こんどうゆきお | 近・現代美術史、慶應義塾大学准教授。1951年生まれ。慶應義塾大学院修了。80年から96年まで東京国立近代美術館勤務(主任研究官)。同館で「マチス展」「1960年代—現代美術の転換期」「現代美術における写真」展などを担当。主な著訳書に『ブランクーシ作品集』(共訳)『カラー版20世紀の美術』(共著)『ソフィカルー歩行と芸術』(共著)など。

第8回 「第6巻 現代彫刻論—物質文明との対峙」(2)

早見堯 | 1月14日[火] | BankART Studio NYK

はやみたかし | 美術評論家、ア佐ヶ谷美術専門学校研究科科長。専門は近・現代美術、美術評論。早稲田大学第一文学部卒業。共著に『現代芸術事典』『近代名画歴訪とアメリカ現代美術』『現代美術演習III』『山田正亮作品集』『二枚の絵』『カラー版20世紀美術』など。訳書にG・アイスラー『巨匠の裸婦デッサン』など。

第9回 「第9巻 大発明物語—芸術に対する科学的思考」(1)

池上高志 | 2月18日[火] | クラブヒルサイドサロン

いけがみたかし | 複雑系科学、東京大学教授。1961年長野県生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。現在は東京大学大学院総合文化研究科教授として教鞭を執る傍ら、複雑系科学研究者として、アートとサイエンスの領域を繋ぐ活動も精力的に行う。著書に『命のサンドゥイッチ理論』『動きが命をつくる—生命と意圖への構成的アプローチ』など。

第10回 「第9巻 大発明物語—芸術に対する科学的思考」(2)

木幡和枝 | 3月11日[火] | BankART Studio NYK

こばたかずえ | アート・プロデューサー、翻訳家、東京藝術大学先端芸術表現科教授。1946年東京生まれ。TBSブリタニカ、工作舎を経て、82年にアーティスト共同運営スペース「plan B」設立、88年より「白州・夏・フェスティバル」事務局長・実行委員。現在、P.S.1現代美術センターなどの客員キュレーターを務める。主な訳書にスザン・ソンタグ『この時代に想う』『良心の領界』『同じ時の中で』、ローリー・アンダーソン『時間の記録』、トニー・ゴッドフリー『コンセプチュアル・アート』など。



バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。バンカートスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。

この9年もの間で講座236、述べ725人の講師の方々をお招きました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ3600人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないので。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

バンカートスクール校長 村田 真

月 mon. 19:30-21:30

清水寛二

「能と出会う part2」

①5/27 ②6/3 ③6/17 ④6/24 ⑤7/1 ⑥7/8
⑦7/15 ⑧7/22



今年は世阿弥生誕650年とか。みなさんは、「能」と言ってどんなイメージを持っていらっしゃるだろうか。能の戯曲や舞台構造は異次元との交信をしているようで、面白いです。実際にどんな身体の使い方をしているのかも、立ち方・歩き方からやってみましょうか。舞踊面や音楽構造（謡や囃子のこと）、また面や装束にも実際に触れる中で、短い期間ながら、それぞれの作品を作っていただければ幸いです。能役者はそれぞれの身体を、どう把握し改造し、どう能の中に生かしていくか一生追及するのですが、これがなかなか魅力です。

しみずかんじ 観世流シテ方能楽師、鎌仙会 http://tesenn.org 所属。沖縄県立芸術大学非常勤講師。観世寿夫、八世観世剣之丞（人間国宝）、九世観世剣之丞に師事。復曲能や新作能（シテ）演出は多田富雄作「一石仙人」「長崎の聖母」「横浜三時空」「沖縄残月記」など、海外公演などにも多く参加。昨年はダニー・ユン・佐藤信演出「靈戯」東京・シンガポール公演に参加。座間市在住。http://shimikan.com



BankART school 2013年5月-7月期

BankARTスクールの概要

週1回、2ヶ月間で全8回。定員は20名程度。

時間=19:30~21:30

会場=BankART Studio NYKにて

スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankARTショッピングでの買い物が5%割引、BankARTババおよびカフェの1,000円チケットが10%割引となります。

火 tue. 19:30-21:30

みかんぐみ 「人口減少期の建築／建築家の役割ってなに？」

①5/21 ②5/28 ③6/4 ④6/11 ⑤6/18 ⑥6/25
⑦7/2 ⑧7/9



最近話題のトピックの一つ「人口減少」。社会構造が変革するときに、建築物や建築家の役割はどんなものになっていくのでしょうか。みかんぐみとしても気が気ではありません。人口減少のメカニズムを確認したり、そういった時代の社会の様子に目を向けてしながら、建築や建築家の役割に迫りたいと思います。みかんぐみの専門分野から少々は離れていますから、毎回ゲストをお招きして、深く楽しく話し合おう予定です。

みかんぐみ 加茂紀和子、曾我部昌史、竹内昌義、マニュエル・タルディッソによる建築設計事務所。1995年NHK長野放送会館の設計を機に共同設立。戸建住宅から、保育園、グループホームやライブハウスなどの建築設計を中心に、家具、プロダクトやアートプロジェクトまで幅広くデザインを手がけている。

テーマA:「人口減少のメカニズム(人口減少の理由と、状況)」

テーマB:「人口減少社会のありかた(どういう社会システムが可能か)」

B-1:「経済的視点での地域のあり方」

B-2:エネルギーと自立

B-3:商店街を通して見る人口減少期

B-4:震災後にみえる新たな地域像。

B-5:福祉の視点で見るこの先の可能性

テーマC:「その中の、建築や都市の可能性。」

C-1:都市のあり得べき姿

C-2:建築の向かうべき方向

ゲスト=大江守之（慶應義塾大学教授）、馬場正尊（OPEN A/東北芸術工科大学准教授）、木下 齊（独立エリヤンス代表理事）、大野秀敏（東京大学大学院教授）、他

水 wed. 19:30-21:30

大野慶人 舞蹈教室「本質と存在について」

①5/22 ②5/29 ③6/12 ④6/19 ⑤6/26 ⑥7/3
⑦7/10 ⑧7/17



舞蹈は、1959年に上演された土方巽作品「禁色」に始まると言われています。60年代には土方巽のダンスエクスペリエンス連続公演により、舞蹈は華々しい搖籃期を迎えます。私も大野一雄、土方巽とともにその渦中になりました。今私自身の体験を振り返り、再び問いたいと思います。舞蹈の創始者、土方巽、大野一雄の基礎は何であったのかと。特に、土方巽の本質と存在の奇跡的結合、大野一雄の「命」についての考え方、舞蹈との関係についてなど、皆様にお伝えしましょう。

おおのよしと 1938年東京に生まれる。1959年土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。以後、アルト一館、暗黒舞踏派公演に参画。1969年初リサイタルのあと舞台活動を中断。85年「死海」の大野一雄との共演でカムバックした。86年以降大野一雄の全作品を演出。1998年、郡司正勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアン・グレイの最後の肖像」を上演。近作に「たしかな朝」（2010）、「時の風」（2012）など。著書に「大野一雄 魂の糧」（フィルムアート社）。



お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。1講座15,000円（税込）。はじめての方は入学金3,000円（税込）も一緒にお支払いいただきます。入金が確認でき次第、手続き完了となります。

一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ : BankARTスクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813
BankART Studio NYK 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9

木 thu. 19:30-21:30

創造都市横浜のこれまでとこれから Part2

①5/16 ②5/23 ③5/30 ④6/13 ⑤6/20 ⑥6/27
⑦7/4 ⑧7/11



他都市に先駆けて取り組んできた横浜の「創造都市」は、文化芸術・経済振興と横浜らしい魅力的な都市空間形成というソフトとハードの施策を融合させたユニークな都市ビジョンです。今回の講座では、横浜の創造都市が育ってきた土壤の歴史をあらためて振り返りながら、より広く、より深く創造都市について学ぶ場を持ちます。各回の発表は事業を担当している横浜市文化観光局の職員が中心に行い、ゲストに専門家としてのアドバイスやヒントをいただきながら自由に議論します。

①5/16 「創造都市はブランド力UPに貢献できるのか」
ゲスト=伊藤香織（東京理科大学准教授）+古川 誠（オズマガジン編集長）

横浜市=守屋喜代司（創造都市推進課）+鬼木和浩（文化振興課主任調査員）

②5/23 「創造都市と賑わい・観光」

ゲスト=梅川智也（日本交通公社）

横浜市=藤田健一（創造都市推進課）+赤岡謙（観光コンベンション振興部長）

③5/30 「創造都市をまちづくりから考える」

ゲスト=北川フラン（アートディレクター）

横浜市=吉田聰子（創造都市推進課）+秋元康幸（建築企画部長）

④6/13 「横浜夜景とスマートイルミネーション横浜」

ゲスト=田中謙太郎（照明デザイナー）

横浜市=新谷雄一（創造都市推進課）+岡崎三奈（（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー経営部長）

⑤6/20 「芸術不動産リノベーションのこれまでとこれから」

ゲスト=西田 司（オンドザインパートナーズ代表取締役）

+中村真広（ツクリバ代表取締役CCO）
横浜市=肥山達也（創造都市推進課）+鈴木智之（都市整備局企画課長）

⑥6/27 「都市を拓くトリエンナーレ」

ゲスト=吉見俊哉（東京大学大学院教授・社会学者）

+逢坂恵理子（横浜美術館館長）

横浜市=田邊俊一（創造都市推進課）+松村岳利（横浜魅力づくり室長）

⑦7/4 「東横跡地に見る基盤整備×創造都市×都市デザイン」

ゲスト=塚本由晴（東京工業大学大学院准教授、建築家）

横浜市=桂 有生（都市整備局都市デザイン室）

+飯島悦郎（（一社）横浜みなどみらい21担当部長）

⑧7/11 「映像文化都市・横浜」が映し出す未来

ゲスト=岡本美津子（東京藝術大学大学院映像研究科教授）

アニメーション専攻+森川嘉一郎（明治大学国際日本学部准教授/意匠論・現代日本文化）

横浜市=大崎敬一（横浜魅力づくり室企画課）+佐野和博（創造都市推進課）+神部浩（横浜魅力づくり室企画課長）

⑨7/15 「アフリカで医療をつくる—子どもたちへの保健教育の可能性」 藤屋リカ（保健師・看護師・慶應義塾大学看護医学部専任講師）

⑩7/12 「アフリカから拓がる建築と教育のコラボレーション」 松原弘典+長谷部葉子

最終回は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

金 fri. 19:30-21:30

アフリカで日本人が学校をつくる 松原弘典/長谷部葉子/他

①5/24 ②5/31 ③6/7 ④6/14 ⑤6/21 ⑥6/28
⑦7/5 ⑧7/12



金 fri. 19:30-21:30

コレヨコ again ※この講座は無料です

参加条件=原則全回出席+参加動機200字程度提出

①6/7 ②6/14 ③6/21 ④6/28 ⑤7/5 ⑥7/12
⑦7/19 ⑧7/26



2011年2月から3月、東日本大震災を跨いで続けられたBankART school「これからどうなるヨコハマ研究会」はディスカッションの場だった。約100人が参加し、皆よく聴いてよく議論した。でも熱が少し上がったな、と思ったら、本にならなかったコレヨコを読み直し見ると、それぞれの表現は豊かで魅力的ながら、全体として意志がなく、パッチャリとした軽さを感じる。コーディネーターのもうひとり、建築家の馬場正尊さんが横浜のことを称して、「プロジェクト・シティ・ヨコハマ」と書いてくれたが、そのプロジェクトがきちんと連鎖されていない。それはコレヨコだけに限ったことではないが「歴史的認識の共有」が進んでいないのだ。故北沢猛の最初の講座は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの大学研究室を拠点に、2008年よりアフリカ・コンゴ民主共和国キンシャサ市で小学校の設計・建設・運営プロジェクトを進めてきた。このゼミでは、世界最貧国と言われる国に日本の若者を送りこんで学校をつくるというこのプロジェクトがどのようなもので、日本にいる我々にどのような意義があるのかを、8回に分けてお伝えする。6年目に入ったこのプロジェクトの今まで振り返り、これからの最後の仕上げに向けての検討も行いたい。最貧国で作られる建築がどのようなものか? イマドキの日本の若者にアフリカでできることとは? さまざまな問題をそこに重ね合わせてみることができるだろう。

①6/7 「歴史認識の共有1」

開港から昭和30年代まで:横浜の都市形成(都心部・臨海部・郊外部 / 都市計画・港湾計画・都市災害・接收など)
ゲスト=石黒徹（横浜都市研究会・元横浜市職員）

②6/14 「歴史認識の共有2」

六大事業から創造都市直前まで:プロジェクト(六大事業)の展開と継承・コントロール(開発抑制・アーバンデザイン)
ゲスト=土井一成（横浜市水道局）+加川浩（加川設計事務所）

③6/21 「歴史認識の共有3」

創造都市から未来へ:シティ・リージョンと新たな横浜開港の可能性
ゲスト=岡部明子（千葉大学准教授）+野原 卓（横浜国立大学准教授）

④6/28 「研究会1」、⑤7/5 「研究会2」、⑥7/12 「研究会3」、⑦7/19 「研究会4」、⑧7/26 「研究発表」

研究会テーマ(案)

- 都心・インナーハーバーのこれから／歴史的な二極型都心のこれから
- 路面・都市と建築との境界のこれから(移動・コミュニケーション)
- 人口:東京の郊外と横浜の郊外の斑状態のこれから／統治形態／被災対応
- 観光:文化観光のこれから／横浜らしさ／シチズンプライド

各研究会は以下のゲストレクチャーを予定しています(調整中)
石川 初(ランドスケープデザイン)、馬場正尊(OPEN A/東北芸術工科大学准教授)、三浦 展(消費社会研究家)、横浜市都市計画係員、他